

亡き弘松前副会長を偲んで

6月18日、弘松前副会長ご逝去の報に接し大変驚き信じがたく、悲しみ一夜を過ごしました。6月7日に電話で、「杖をついて歩ける様になり、物に掴まらず立てるまで快復した」とリハビリの成果を喜んでおられ、コロナ予防接種も済んだとの事でしたので、体調の良い日に久しぶりに“一杯”やりましょうと約束をしたばかりでした。あまりにも突然でしたので信じがたく、絶句する…のみでした。(6月17日夕方肺炎)

平成27年5月の理事会で私の会長就任と同時に副会長をお願いいたしました。それから令和2年2月と5月に頸椎管狭窄症の手術・治療に専念されるまで、副会長として佐倉市シルバー人材センターの事業推進に専念頂き多大な功績・足跡を残されました。二人で多様な事業にも挑戦しました。副会長就任早々にはセンター最大の事業である「第一回シルバーフェスタ2015」の実質的責任者として会員と共に準備に奔走されました。その際独自に作成されたフェスタ開催の工程表や細かな役割分担表などは、その後も、また今後も活用できる貴重な資料となっています。

また、職群や地区の会合でも会員の輪に溶け込み、会員の皆さんから親しみと信頼を受け、役職員では一番の人気者で皆から愛されていました。互助会バス旅行でも参加者への気配りなどしながらも、会員と対話をする事が好きな方でした。お酒も強く出身地九州地方のお酒の「うんちく」を語りながら楽しく飲んでいた姿が目には浮かびます。いつも楽しいお酒でした、快復したら楽しいお酒を飲みたかった！ 残念です。

また、レトロ同好会でも音楽や音響機器に詳しく率先して活動し、IT活用によるコロナ対策の機器作成に取り組んでいる矢先の入院でした。皆一日でも早い快復を待っていました。事務局のIT化、ホームページの作成、動画によるPR、QRコードへの取り込みなどお持ちになっている技能・技術を遺憾なく発揮して頂きました。感謝しております。

ここに皆様とご冥福を祈ると共に、弘松前副会長を偲び、業績の一端を投稿させていただきます。

令和4年6月28日

佐倉市シルバー人材センター
前会長 田中千俊



ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター



(公社)佐倉市シルバー人材センター
ホームページ

職群紹介

パソコン班

班員15名(男性12名、女性3名)で構成するパソコン班、とても広範囲に活発な活動と就業を行っています。今回は研修会の様子と有料老人ホーム佐倉(ゆうゆうの里)への出張相談会の模様取材しました。

広範囲な活動と就業

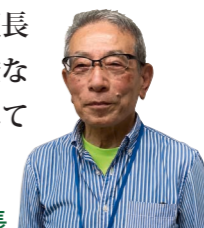
班長の長谷川宏祐(はせがわひろすけ)さんにパソコン班全般の活動と就業についてお聞きしました。主なものは次の通りと、大変広範囲な様々な活動を繰り広げています。

- パソコン、スマホ、タブレットの取り扱い指導、相談受付～アプリのインストール、スマホの購入相談など～
- パソコンの修理、リユース、安全な廃棄指導～物理的修理、ソフト修理、機能アップ、データ削除して廃棄など～
- 事業者支援～スマホ販売事業者の依頼で体験会の開催、講師派遣など～
- パソコン・スマホなんでも無料相談会～ワークプラザ・志津公民館などで毎月定期開催～
- 新しい生活様式に対応するパソコン・スマホの活用支援～見守りカメラ、テレワーク支援、リモートサポートの相談など～

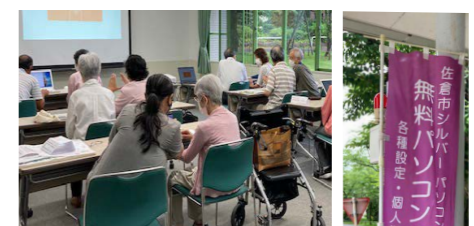
研修会でのスキルアップ・情報交換

各自の得意なスキルの紹介とスキルレベルの統一のため、毎週研修会を開き情報交換を行っています。取材日のテーマは2つありました。翌週の(ゆうゆうの里)での出張相談会の準備の最終確認と、8月から年内16回予定されている、キャッシュレスサービス・ラインなどの説明相談会に向けた最新知識・情報の共有化でした。長谷川班長の司会のもとで活発な意見交換が交わされていました。

長谷川班長



研修会風景↑ ↓相談会風景



相談会受付

〈ゆうゆうの里〉での「パソコン・スマホなんでも相談会」

「パソコン・スマホのなんでも無料相談会」は毎月ワークプラザ他で定期的に開いていますが、〈ゆうゆうの里〉のお客様から『短い距離だけど、足がないので来るのが大変なのよ。体が自由に動かないのよ。』とお聞きし、ならば『行こっか!』となり、施設管理者と打ち合わせて、今回の出張相談会が実現しました。」と、長谷川班長。「出張相談会は初めての試みです。結果が良ければ他の施設へも広めたいと思っています。」
〈ゆうゆうの里〉での相談会当日、建物の入口には2本ののぼりと部屋の前には2枚の看板が掲げられ準備万端。10時開始を前に早くも予約のお客様が集まり、10分前には既に7名の相談員の席は満席でした。相談内容はやはりスマホが一番多く、次にパソコン。タブレットをお持ちのお客さまもおられました。相談時間は2時間でしたが、予約のお客様15組にスポットのお客様4組の合計19組、24名のお客様を迎え大盛況の相談会でした。

長谷川班長に振り返って頂きました。「年配の方、足の不自由な方への要望にお応えできたと思います。悩みを抱えておられる方が多いのが分かりました。相談会の運営方法はさらに工夫が必要です。」

パソコン班の皆様、大変お疲れさまでした。今回の無料相談会から多数の就業につながり、益々活動を広げていきますことを祈っております。取材担当/広報委員 小野寺 弘孝

慣れた手つきでハンマーナイフの操作レバーが操られるとエンジン音が一段と高まり、伸びた夏草がびっしり生い茂る緑地帯を草刈機は、ゆっくりと前進し始めた。草に取り囲まれたアジサイや樹木をうまく避けながら、65cmの幅でドンドンと刈り進む。緑地帯の端までくると、草刈機の位置取りを考えながら停止、後退、前進のレバー操作を繰り返して方向変換。緑地帯には軽い傾斜があるので、進路を安定させるハンドル操作の加減が難しそうである。生い茂る草に隠れた大きな石やブロック片を見つけると、先に取り除く。草刈能力は格段に高いが、細かな作業は苦手である。道路より一段高いところの緑地帯を保持するブロック擁壁の天端と並行する雨水U字溝との間が65cmに満たない狭い場所や樹木の周りは、刈払機で丁寧に仕上げる。草刈りは端が難しいとのこと。得意技の異なる機具を使い分けて刈りこなすのがSSJCの近代化草刈りです。

傾斜地では進路を安定させるのにハンドル操作を加減



エンジン始動 生い茂る夏草に向かう

真夏の取材に協力いただいた草刈班の皆さま、ありがとうございました。取材担当/広報副委員長 徳野 廣一

草刈りの近代化

草刈り機が破る！



根郷・弥富地区の50ヶ所において進行中の近代化草刈りの施工期間は、6月から10月までの5ヶ月です。ここは、六崎緑地帯の東側部365mと西側部360mに茂る夏草を幅3mの带状に刈り、これを集めてトラックで小篠塚の佐倉市チップ処理場へ運ぶのが仕事です。約2,200㎡の範囲を2日で刈るチームの編成は、草刈機操作1名、刈払機3名、作業補助1名の合計5名。この日は、印旛沼畔に沿った『ふるさとの道』の南側部分3kmの草刈りを、白井地区のチームが同じ工法で実施しているとのことでした。近代化草刈りの人員を確保するために草刈職の募集も行っています。

←根郷・弥富地区 草刈班

左側 上から 池田さん(副班長)、池田さん、榎本さん
右側 上から 菊池さん、内海さん

S SJCの導入した草刈機は、刈取幅65cmと同40cmの2機種です。施工場所の特徴に合わせて使い分けます。

民間のお客様を主体にした草刈班の昨年実績は、4地区合計で年間約1,800万円でした。今年度は工法近代化により、草刈班の就業機会を大幅に増加させる道を拓きました。



停止、後退、前進のレバー操作を繰り返して方向変換



状況に応じて沢山のレバーを操作

他の地区にもこの工法を展開すると、4地区で安定した仕事の確保が期待されます。この

鍵は草刈職の増員です。みなさん、一緒にやってみませんか。関心の湧いてきた方は事務局にお問い合わせください。

人手頼りの『草刈り』のイメージを打ち破ります。
『ハンマーナイフ』と称される自走型エンジン式草刈機を投入し、施工能率を大幅に向上させた近代化スタイルで仕事に取り組み根郷・弥富地区の草刈班を六崎緑地に取材しました。

ディスカバー 佐倉

第10回



佐倉市の東部にある和田地区に伝わる「はたおり;機織り」は、当地区に古くから伝わる口伝集(佐倉市指定文化財)の技法を基に、長い歳月をかけて復元された、佐倉の伝統的な文化です。

和田ふるさと館を建設する際に行われた敷地の遺跡調査において、弥生時代(100年頃)の地層から、土器と共に糸車に使用された滑車が発見されました。弥生時代は、麻糸から作られた貫頭衣を身につけていたと考えられています。

市立美術館で開催された「文化財が紡ぐ佐倉の歴史—宝金剛寺と北条氏勝;岩富城主で佐倉を支配」展(会期:5月28日~7月18日)は、宝金剛寺蔵「七条袈裟や横被」が修復されたことから企画され、中世の佐倉の豪族と寺院・僧侶の活動を示す資料と共に、前述の口伝集も展示されていました。

もう一つのサークル『手織りの仲間さくら;さくら織り』は和田のはたおりでの経験を通して、県内、都内の各所で展示活動を行い、現在は佐倉市新町に工房を置いています。そこで作られた作品は、国立歴史民俗博物館で令和2年10月6日~12月

「ハローシニア佐倉」No.27(2021.10月号)において、ディスカバー佐倉第8回 地域づくりの拠点 和田ふるさと館をご紹介します。

はたおり伝承サークル 『和田はたおり保存会』

6日に開催された『ジェンダーの歴史』展においても、現代社会における女性活躍のひとつの姿として展示され、内外から好評を得ました。

今回は、和田地区で継続的に活動している『和田はたおり保存会』をご紹介します。活動は、毎週金曜日に和田ふるさと館で行われています。その作品が、JR佐倉駅のまちづくり市民ギャラリーで、7月16日~7月21日まで展示されました。

はたおり体験も随意時、受け入れていきますので、是非参加してください。この織物は、藍色の優雅で繊細なデザインとなっており、それを作り出す感性を、感じとって頂きたいそうです。

和田ふるさと館周辺の畑では、織物の原料の綿と染料の藍が栽培され、綿から、綿糸を紡ぎ藍で染めた糸を、復元した2台の「はたおりき;日本で唯一の物」を用いて編んでいきます。その編み方は口伝集によると、250通りもあるそうです。

100%佐倉産の織物になります!



取材担当/広報委員長 岩淵 功



“会員互助会の日帰りバス旅行”中止のお知らせ

恒例の日帰りバス旅行について、コロナ禍の続く中、感染拡大防止と会員皆さまの体調管理を第一とする考えから、昨年と同様に中止することと致しました。

令和4年8月1日 会員互助会会長 岡本恒雄

会員互助会



会員同好会「歌の会」の皆さんが、7月17日(日)にプリミエール酒々井にて開催された『第1回佐倉歌謡協会発表会』に出演し、歌の会の岡本恒雄副会長が、トップ賞を受賞されました。おめでとうございます。

会員互助会